



犬のトイレ

トイレは甲板！？

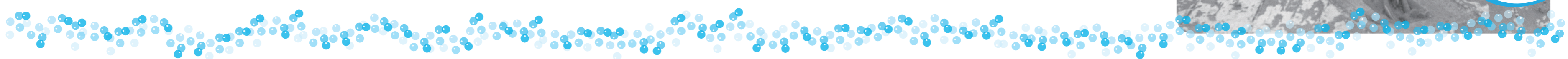


隊員たちとともに、南極へ行く観測船「^{そうや}宗谷」に乗り込んだカラフト犬たち。2ヶ月もの長旅の中で運動不足を解消するため、1日に1度、運動の時間があります。船底に近いところにある犬小屋から、犬係の隊員が、船の上にある甲板で思いっきり遊ばせるのです。

ところが、甲板に出たとたん、犬たちはものすごい勢いで「おしっこ」をします。自分の部屋ではぜったいにおもらしをすることはないのです。海が荒れて船が大きくゆれる時は、甲板に出られません。そんな時犬たちはじっと「おしっこ」を我慢するのです。ですから、ゆれがおさまって甲板に上る階段の途中で我慢できずにジャー、ジャーッ！連れていた犬係の隊員がびしょり…なんてこともあったそうです。



水に流して
なかったことに…



世界一眺めのよいトイレ！

いよいよ南極・昭和基地へとたどり着いた犬たち。隊員が作った犬小屋よりも、雪や氷の上で過ごすのが好きでした。そんな犬たちは、トイレももちろん小屋の外、^{そうだい}壮大な南極の自然の中、時には夕日に染まる雪原を見ながら…夜空にうかぶオーロラの下で…それはそれは気持ちよく排泄していたことが想像されます。まさに、世界一眺めのよいトイレですね。犬たちの排泄物は、タイドクラック（潮の満ち引きによってできる海氷の割れ目）に処理していました。

そりで走っているときにトイレ！？

南極で、そりの訓練をはじめた犬たち。犬は運動をすると便意をもよおすらしく、そりを引きながら1頭が足を広げ、ふんばった形のまま、引きずられながらポロポロと落としものをしていました。1頭がすむとまた別の1頭がはじめ、その度にロープがからんで大混乱！^{どうだい}胴体に、足に、ロープが巻きつき、ロープと犬たちは知恵の輪のようにもつれ合い、順序よくとかないとうまくほどけないほどでした。訓練を積んでいく中で、犬たちも走りながらうまく用を足すようになり、ロープがからまることも少なくなっていました。

